

The 80th Anniversary



おかげさまで 創立80周年 広島国際学院



大先輩から聞いた学院創立者の面影

特集 広島国際学院80年の歩み	2-3
創立80周年記念座談会	3
地域連携フェア開催 工学部・情報学部	4
「かいた七タさん」盛り上げに一役	
現代社会学部	6
先輩からの提言 短期大学部	7
高校から発信	8-9
第19回学外展	10
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	10
サマーフェスティバル in ほことり	10
広島東洋カーブ・ブラウン監督に激励のお点前	11
春季リーグ・新人戦ともに優勝	11
大先輩に栄誉	12
苦節20年、70歳への再チャレンジ	12
今、求められている人材とは？	
— 企業との座談会を開く —	13~15
広島シティカレッジ	16
高校生に大学の講義を提供	16
高校生ものづくりコンテストを本学で開催	16
今後の主な行事予定	16

広 報

第71号

平成19年10月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>

広島国際学院80年の歩み



広島電機高校の旧校舎。終戦翌年の移転再開から昭和35年まで使われた。(海田町)
写真提供:古川氏(昭38卒)

たといいます。授業が再開されたのは何と翌年1月、同じく広島市内で被災した学校では比類のない超高速で広島電気学校は復活したのです。

広島電気学校の普通科(電気)は後に広島電機高等学校に移行します。1951(昭和26)年、学校法人広島電機学園を設立。1964(昭和39)年には安芸郡瀬野川町(現安芸区中野)に自動車短期大学が、その3年後には広島電機大学が開学しました。「これからは電気工業の時代になる」と電気学校



上瀬野キャンパス

学校法人広島国際学院はおかげさまで、今年創立80周年を迎えました。本学院は創立者・鶴虎太郎により1927(昭和2)年11月1日に「広島高等予備校」として誕生。1938(昭和13)年には「広島電気学校」に転身しました。戦争やそれに伴う困窮、さらには原爆による施設焼失と、創立者の苦難は筆舌に尽くしがたいものでした。しかし創立者は強靱な意志をもって学校再建に奔走、奥海田村(現海田町)の旧海軍施設を新たな校舎に得ました。机や椅子、教壇などは、教員と生徒が廃材を集めて作った



短大設立(中野キャンパス)
『学校法人広島電機大学70年史』より

を立ち上げたのは創立者の英断でしたが、生活の電化が進むにつれて学院も大きく発展していきました。手狭になった中野校地から自動車短期大学は上瀬野校地へと移転。同じ上瀬野校地に1999(平成11)年、初の文系学部である現代社会学部が開設されたのを機に、法人名も学校法人広島国際学院と改めました。

多くの皆様に支えられ、80年の節目にたどり着きました。創立者から受け継いだ教育への情熱を保ち、広島国際学院はこれからも歩み続けます。

1989年	消費税導入
1990年	東西ドイツ統一
1991年(平成3)	広島電機学園から広島電機大学に法人名称を変更認可
1994年(平成6)	広島電機大学工学部に情報工学科設置認可される
同年	大江健三郎、ノーベル文学賞受賞
1995年	阪神・淡路大震災
1996年(平成8)	広島電機大学大学院工学研究科を新設し、物質工学専攻、電気工学専攻、電子工学専攻、機械工学専攻の各修士課程を設置
1997年(平成9)	広島電機大学附属高等学校総合システム科設置認可
同年	『もののけ姫』が配給収入の邦画新記録樹立
1998年(平成10)	法人名称を学校法人広島電機大学から学校法人広島国際学院に改称
同年	金融ビッグバン始まる
1999年(平成11)	広島国際学院大学、広島国際学院大学自動車短期大学部
同年	広島国際学院高等専修学校に名称を変更認可
同年	広島国際学院大学に現代社会学部新設認可
同年	広島国際学院大学院工学研究科に材料工学専攻、計測制御専攻の各修士課程(後期)を設置
2000年(平成12)	広島国際学院高等専修学校 自動車整備科、電気科並びに機械科を廃止認可
2001年(平成13)	広島国際学院大学工学部電子工学科からメディア情報通信工学科に名称変更 広島国際学院大学院工学研究科修士課程(知能情報専攻)設置認可される
同年	ニューヨーク同時多発テロ事件
2002年	日韓共催ワールドカップ
2003年(平成15)	広島国際学院大学院現代社会学研究科博士前・後期課程(現代社会学専攻)設置認可
同年	広島国際学院大学自動車短期大学部に専攻科(整備工学専攻)設置
同年	広島市中区に立町キャンパスを設置
同年	イラク戦争始まる
2004年(平成16)	広島国際学院大学工学部を改組し情報学部を新設
同年	情報工学科、情報デザイン学科を設置
同年	工学部に電気電子工学科、バイオ・リサイクル工学科を設置
2007年(平成19)	広島国際学院大学工学部の電気電子工学科、機械工学科、バイオ・リサイクル工学科を統合し総合工学科に、情報学部を情報デザイン工学部に、情報工学科、情報デザイン工学科を情報デザイン工学科に改組(届出済み)

鶴虎太郎先生は先生になるために生まれてこられた

—— 創立80周年記念座談会 ——

広島国際学院高等学校 社会科学部

広島電気学校の「日誌」、昭和二十年八月の頁には、「六日・月 広島二大空襲アリ（八時頃）原子爆弾ニヨリ広島全滅ス」と記述されています。鶴虎太郎校長（当時）の筆跡によるものです（2005年文化祭発表）。本校の社研部員は、学院の創始者である鶴虎太郎先生の面影に触れたいと願っていました。6月20日、鶴素直理事長の呼びかけで座談会が行われ、終戦以前に本校を卒業された3人のOB、美甘進示さん（昭和16年電工科夜間部卒）末永護さん（昭和18年普通科入学）高野清二さん（昭和16年電工科卒）に西本五郎名誉学院長も同席され、社研部員6名の質問に答えられました。お三方とも会社を興され、社長や会長職についておられます。



OBの皆さんと記念撮影



美甘さん

「日常に数学がある」「生活のどこでも数学が生きている」と、鶴虎太郎先生が話されたことを社是にされている美機電株式会社的美甘さん。高野さんは、鶴先生はいきなり微積から始められたと、数学が難しかったことに触れられました。末永さんは当時の先生方のお名前を上げられ、軍事教練などの思い出も語られました。お三方は一緒に、鶴虎太郎先生がとても優しい先生であったこと、70才を過ぎても教えることに情熱を込めておられたこと、それらが今も心に焼き付いて生きる指針になっていることなどを語って下さいました。



末永さん



高野さん

生徒たちは「数学の立方根の求め方などは今の高校では習わない」「OBの方々のお話が漫画『はだしのゲン』と重なって見えました」「数学の神様と呼ばれていた人が私たちの学校をつくられた」「OBの方たちは先生のことを本当に信頼しているのだなと思った」「鶴虎太郎先生は先生になるために生まれてこられたんだなあと思いました」と感想を記しています。80年を迎えた本校の歴史に鶴虎太郎先生は確かに生きておられます。

《学校法人広島国際学院の80年》

- 1927年（昭和2） 広島高等予備校を広島市国泰寺町に新設
- 1929年 ニューヨーク株式市場大暴落（暗黒の木曜日）、世界恐慌始まる
- 1930年（昭和5） 広島高等学院を広島高等予備校に併設を認可される
- 1937年 盧溝橋事件、日中戦争始まる
- 1938年（昭和13） 広島高等学院の夜間を廃止、広島電気学校を新設
- 同年 国家総動員法公布
- 1945年（昭和20） 原爆被災、全施設を消失
- 同年 太平洋戦争終結
- 1946年（昭和21） 広島市内から安芸郡海田町東海田に移転する
- 1948年（昭和23） 日本国憲法公布
- 同年 広島電気学校の高等科を広島電機専門学校として新設。学制改革により広島電気学校の普通科（電気）を広島電機高等学校に移行。
- 1949年 お年玉つき年賀はがきが登場
- 1951年（昭和26） 学校法人広島電機学園認可される
- 同年 対日講和条約及び日米安保条約調印
- 1956年 日本が国際連合に加盟
- 1964年（昭和39） 広島電機学園短期大学（自動車工業科）設置認可される
- 同年 東海道新幹線開通 東京オリンピック開催
- 1966年 ビートルズ来日
- 1967年（昭和42） 広島電機大学工学部、電気工学科と電子工学科設置認可される。短期大学を広島自動車工業短期大学に名称変更
- 同年 公害対策基本法公布
- 1968年（昭和43） 広島電機大学工学部に機械工学科増設認可される
- 1970年（昭和45） 広島電機高等学校を広島電機大学附属高等学校と名称変更認可
- 1973年 第一次オイルショック起こる
- 1977年 王貞治、ホームラン世界記録達成。国民栄誉賞第一号に
- 1986年 東京サミット開催
- 1988年（昭和63） 広島自動車工業短期大学、安芸区上瀬野に移転



熱心に聴き入る聴講者

平成19年7月14日(土)、本学立町キャンパスにおいて、地域連携フェアが開催されました。鶴理事長と今村学長の挨拶に始まり、招聘講師による地域産業の現状と課題に関する講演と地域連携に関連する各種助成制度の紹介があり、本学教員の技術シーズについて4件の発表が行われ、最後に、約30件のポスター展示の中、立食パーティ方式による技術交流・名刺交換会が行われました。今回は、中国経済産業局、広島県、広島市、(財)ひろしま産業振興機構、(財)広島市産業振興センター、広島商工会議所の後援のもと、本学の地域共同教育研究センターとハイテク・リサーチ・センターが共催しました。

【招聘講師による講演】

講演「広島ガスにおける環境への取り組みについて」

広島ガス株式会社 経営統括本部 環境担当部長 蓮池 俊治氏

化石燃料の中で最も環境負荷が低い天然ガスおよびガスコージェネレーションシステム等の省エネルギー・設備の普及を柱とした事業活動を行っている広島ガスが、会社を挙げて取り組んでいる社内および地域における環境活動について紹介が行われました。



蓮池氏



山縣氏

講演「各種助成制度を利用した研究開発の成功事例の紹介」

財団法人ひろしま産業振興機構 技術交流担当部長 山縣 一郎氏

(財)ひろしま産業振興機構が対応している各種の研究開発等のための助成制度を利用して、新技術・新製品開発を行った地域企業の成功事例を紹介するとともに、申請するためのノウハウ、研究開発の実施や報告書作成のために必要な留意点について解説が行われました。

【本学教員による技術シーズの発表】

①「微生物の探索・利用研究 - バイオの宝探し -」

バイオ・リサイクル学科 教授 新川 英典

バイオテクノロジーとは、「生物の機能を有効利用する」技術です。最も多様で多彩な機能をもつ微生物の利用はバイオテクノロジーの根幹です。ここでは、医薬品素材の分離源である放線菌を中心に、微生物の探索・利用研究と本学でのバイオ教育の一端を紹介しました。

オープンキャンパス



廃油(てんぷら油)利用ジェットエンジン運転実演 (工学部)

7月29日、8月5日の両日、広島国際学院大学のオープンキャンパスが開催されました。出展には各学部・学科がとりどりに趣向を凝らし、実演や模擬授業など多彩な催しが展開されました。とりわけ改組を控えた工学系の各学部は、例年にも増して紹介に熱が入っていました。

来年度から工学部は複数あった学科を総合工学科に統合、バイオ・リサイクル、機械システム、電気システムおよび基礎理工の4専攻制に変わります。また、情報学部から改称する情報デザイン学部も、情報デザイン学科のみの1学科となり、メディア・エンターテインメント、コミュニケーションデザイン、コンピュータネットワークの3専攻制に進化します。参加した高校生や保護者、先生には、このたびの学科改編によって学生がそれぞれ自分の興味ある分野を

②「スターリングエンジンの設計と試作」

機械工学科 教授 黄 樹偉

石油の大量消費による資源枯渇と地球温暖化は既に世界的な問題となっています。そこで、理論熱効率が高く、石油燃料を必要とせず、太陽熱、ゴミ焼却熱、バイオマス燃料も使える、夢のエンジンといわれるスターリングエンジンには多くの関心が持たれています。この夢のエンジンの設計と試作について紹介しました。



ポスター展示

③「生産システムにおけるオブジェクト指向ICタグの応用」

情報デザイン学科 講師 神垣 太持

電子マネーやトレーサビリティなどで利用が進んでいる無線ICタグシステムを応用して、オブジェクト指向的にタグを扱うことで、生産物の流れをより柔軟に管理できるだけでなく、各工程への指示やデータベース等の更新への適用が可能になることについて紹介しました。



技術交流

④「本学におけるe-Learningの利用と地域連携の可能性」

情報工学科 准教授 高石 武史

入学者のバックグラウンドが年々変わりゆく中で、従来の授業のサポートとしてe-Learning systemを利用しようとしている大学が増えてきています。今回は本学で導入されたシステムについて、授業でどのように活用しているかを紹介しました。また、大学と地域との連携の面でどのように利用していけるかも紹介しました。

台風4号接近のあいにくの天候にもかかわらず、企業など外部からは約60名の参加をいただき、学内の参加者を加えると合計100名以上となり、会場の大ホールがほぼ満員となりました。招聘講師の先生方には、熱心にご講演をいただき、質疑応答でも熱心な討論が交わされ、参加者の多くが参考になったものと思われま。本学教員の技術シーズの発表時間は、天候の悪化を考慮して急遽短縮しましたが、最後の技術交流・名刺交換会で、講師および参加者の間で技術シーズに関する質問や地域連携に関する情報交換が活発に行われ、和やかな雰囲気の中で地域社会と本学との連携を深めることができたものと確信します。

今まで以上に学びやすくなることを説明。これとともに、各研究室が行っているユニークな研究を実演も豊富に取り混ぜて公開し、本学で学ぶことがいかに楽しいか理解してもらえよう務めました。ロボットやアニメ作りなど若い人の心をひきつける楽しい展示が多く、参加者も興味深げに見学していました。

在学生の活躍も光りました。キャンパスアドバイザーとして会場を案内し、学生生活についての質問にも丁寧に応じていました。また、オープンカフェやお茶席での温かいもてなしや吹奏楽愛好会の演奏も参加者の心を和ませました。学内の雰囲気が大変いいと参加者から非常に好評でした。



新しい情報デザイン学部を説明

オープンキャンパス

「かいた七夕さん」盛り上げに一役

本学教員と学生がボランティア参加

現代
社会学部



華やかな笹飾りが立ち並びにぎわった

今年で13回目となる安芸郡海田町の夏祭り「かいた七夕さん」が7月7日(土)、海田町畝公園にて行われました。町民主体の実行委員会からの呼びかけで、昨年度より現代社会学部の教員(伊藤、高畑、阿部)と学生が運営ボランティアとして参加しています。今年度は会場内に本学のバザー用テントを立てることができ、ボランティア愛好会がバルーンアートを実演配布し、留学生が水餃子の屋台を仕立てました。このほか、祭り企画のカヌー教室では本学学生が指導補助・誘導を行い、川縁に色とりどりのキャンドルを配置し、「地域国際化論」の受講生が来場するブラジル人を対象にアンケート調査を行うなど、総勢45名の学生参加がありました。実行委員会からは、「とても助かった、また来年度も」と言われ好評でした。

小学生の平和学習を支援 — コミュニケーション実習 —

准教授 栗原 理

7月10日(火)、広島市立黄金山小学校4年生の校外学習に合わせ「平和公園内記念碑に関する情報を小学生に伝える」というテーマで実習を行ないました。平和公園内の主な記念碑をポストとしたオリエンテーリングを通して、児童の平和学習を支援するというものです。当日は雨天のためゲームを通じた情報伝達はできなかったものの、スクール形式で手作りのパネルを使い碑の由来を伝えました。悪条件にもかかわらず、児童たちが熱心に聞いてくれたことが唯一の救いでした。

当初目的の「伝えること」のみならず、小学生と昼食や散策をともにして、双方向のコミュニケーションが図れたことは、予想外の成果であったと感じます。

新入留学生歓迎会

講師 阿部 康久

5月30日(水)午後、新入留学生歓迎会を開催しました。本年は、入学した4月当初に新入生歓迎会やそれに類する企画(大学主催のものや、学生有志によるものなど)が多く開催されたので、あえて入学後少し時間をおいた時期に企画してみました。歓迎会には40名程度の参加者があり、恒例になっている手作りの水餃子やカレーが振る舞われました。今年の歓迎会は日本人学生の参加者も多く、準備や後片付けを熱心に手伝ってくれたので、主催する側としても満足できる会になりました。



手作り料理でお腹も心も満足

日本社会史学会奨励賞を受賞

講師 山田 陽子

おかげさまでこの度、拙著「心」をめぐる知のグローバル化と自律的個人像(学文社、2007年)により、日本社会史学会2007年度奨励賞を受賞いたしました。博士論文に加筆修正して出版した本書に対し、過分な評価をいただきましたこと、恐縮するとともに大変嬉しく思っております。受賞を励みにして、少しでも学問の発展に寄与するような研究ができるよう努力して参ります。



授賞式後、恩師と

オープンキャンパス



フィールドワーク体験

オープンキャンパスは昨年从中野キャンパスで工学部・情報学部と合同で全体会を開催しています。それから午後にかけて現代社会学部のある上瀬野キャンパスに移動する時間を利用し、フィールドワークを経験してもらう仕組みにしています。社会学部に欠かさない実地調査の一形態として、移動の途中下車してデジカメで地区の特徴を記録、町マップ作りを体験するというわけです。参加者は池本准教授の指導のもと、興味深そうに町を観察していました。アシスタントとして、またランチトークなどに在学学生が自主的に参加して、高校生たちの訪問を歓迎していました。

就職課長 川口 修三



講演する高阪さん

昨年から最終授業の日に外部講師を招いて特別講義「クルマの整備業」を開き、学生の職業理解を深めるとともに、夏休みからの会社訪問や就職先選びに役立てています。自動車業界の第一線で活躍する方から直にお話を聞けるとあって、選択科目でありながらほとんどの学生が受講する人気講義です。今年は7月5～6日の2日間、2001年度卒業生で広島トヨタ自動車(株)の高阪伸彦主任をお招きし、ご講演いただきました。右腕に「トヨタ一級章」がさん然と輝き、きちっとした身だしなみの高阪先輩が登場すると、学生も日頃のリラックスモードが一転、期待と緊張を交えながら熱心に話を聞き、内容をメモするなど真剣そのものでした。

講演は、これから就職活動をする学生に分かり易く、「何故自分が整備士を目指したか。何故この会社を選んだか」から始まり、学生時代に学んでおかなければならないことや採用試験の心得、就職してからの社会マナーとして「挨拶の大切さ」や「整備士は人命を預かるので、ミスが許されない」など先輩として経験から学んだことを後輩に披露していただきました。

学生から「仕事の厳しさ」や「2級整備士国家試験の勉強のこと」など、身近な疑問や勉強の仕方など多くの質問が出され、反応としては「先輩からナマの声が聞かれ、目標ができて勉学や就職活動をする励みになった」との声が上がっていました。

1年生単独チーム 優勝!

— 水無月祭開催 —

学事課係長 小平 孝昭

6月2日(土)、短大部学友会の恒例行事「水無月祭」としてソフトバレーボール大会を開催しました。当日は教職員2チームを招待し、学生6チームとの計8チームで予選リーグと決勝トーナメントを行い、「楽しく」、時には「ハード」な試合となりました。当日は学長も参加するなど、学生・教職員間の親睦も深められました。今年は1年生単独チームが優勝というすばらしい頑張りを見せてくれました。来年も是非参戦し、水無月祭初の連覇という快挙を目指してもらい、またその他のチームおよび教職員もこれを阻止すべく、日々のトレーニングを積み重ねて?より一層大会が盛り上がるよう期待したいと思います。



レシーブは任せて



ちゃんと動くかな? (体験入学)

講師 栗田 勇樹

短大部では7月1、29日に「オープンキャンパス」を、8月6、7日に「体験入学」を行ないました。

オープンキャンパス 今年度より学内全ての施設・実習場を公開し、高校生・保護者の方を数班に分けて教員が案内して回る「学内ツアー」を実施、それぞれの施設で設備や授業内容を説明し、大変喜ばれました。また「全体会」を短縮して対象者別に3つの分科会を開催、高校3年生には入試内容を、高校1・2年生には自動車整備士の仕事について、保護者の方には入学後の本学部の支援体制についてより細かく説明し好評を得ました。参加した高校生・保護者からは「短大の特徴を示す実習設備について参加型の実演や展示などの各イベントも楽しく、施設の充実振りが印象深かった」との声が聞かれました。「ぜひ入学して自動車の勉強がしたい」と言う高校生も多く、各イベント担当の教員の話に熱心に聴いている様子が高校生ながら頼もしく思われました。

体験入学 昨年は3年生に限定していましたが、今年は高校1・2年生にも自動車整備の楽しさを体験してもらおうと、6日は3年生、7日は1・2年生を対象として2日間に渡り実施しました。2日とも参加者はまず50ccのバイクのエンジン構造について説明を受けた後、各教場に移動し、エンジンを分解しながら内部の構造について各指導員から説明を受けました。昼食を挟んで元通り組立てを行ない、力一杯キックペダルを踏むと勢いよくエンジンが始動して、暑い中汗だくで真剣に取り組んでいた顔が笑顔へと変わり、充実した1日となりました。

新機軸の
オープンキャンパスと体験入学

オーストラリア姉妹校訪問

国際交流室

土肥

穰治

例年より日程を1ヶ月後ろにずらしたため(8月中・下旬)、南半球の冬は我々には春のようでした。でも、朝は冬のように寒く、太陽が昇るにつれ、春、そして夏のように暖くなり、夜はヒーターをつけないとしのげないほど寒くなります。今回は天候にも恵まれ、素晴らしい交流が



乗馬も体験

できました。中でも印象的なのは、帰国時、先生方全員とホストファミリーが我々を駐車場に見送りに来てくれたことです。さらに、全員で旅の無事を祈り氣勢を上げてくれました。これまでの訪問で最高の交流だったのは事実です。
参加者の一人、普通科2年3組の新本博子さんは以下のように綴っています。
「初めてホームステイを体験して思ったことは、やっぱり自分を窮地に落とし入れないと英会話は上達しないということです。自分の言いたいことは山ほどあっても、それを英語に変えることができず、苦勞することがたくさんありました。それに本場の英語はとても速く、聞き取れることもままならない状況でした。行く前にもっと英会話の勉強をしておけば良かったと思っています。心の中に『何とかなる』という甘えがあり、あまり勉強して行きませんでした。外国へ行き、いろんな人と出会い、たくさんものを見て感じ、日本とはまた違った文化に接したことはとても良い経験になったと思います。またオーストラリアに行きたいと強く思います。家族や学校の先生、ホストファミリーや友達に感謝します。本当にありがとうございました。」



絶景!



ディスカッション中

学院創立80周年記念

「人文字」航空写真制作

学院創立80周年記念行事の一環として、生徒・教職員総勢1,300人による「人文字」を本校グラウンドに作成し、航空写真を撮りました。

5月28日(月)の4時限目、担当者の指示でそれぞれ所定の位置につきました。12時20分に広島西飛行場を飛び立ったセスナ機が、12時30分、青空の中を本校西方から姿を見せ、グラウンドの「人文字」を中心に上空を4回旋回して、機内からシャッターを切りました。後日、参加者全員の願い通りに見事な「人文字」写真が届きました。写真はクリアファイルにプリントされ、記念品として全校生徒に配布されました。



くっきり 80年の文字

グラウンドが感動の場に!



勇壮な騎馬戦

る者に感動を与えるのです。

多数の来校者を見込んで今年は大幅に席を増やしましたが、それでも全く焼け石に水状態でした。来て下さった方々には、大変ご迷惑をおかけいたしました。

「国際の体育祭はすごいよ! いっぺん行ってみんなさい!」と言われ続けて久しい本校の体育祭です。なぜ、このように言われるのでしょうか。バラエティに富んだ種目、観戦する者を魅了する見事な集団演技など様々な理由がありますが、その根幹にあるのは、「全ての種目で、全ての生徒たちが、競技・演技を真剣に行う」ということです。「自分たちの体育祭をみんなで盛り上げて、感動の場にしよう!」という意思が伝わり、見



よさこい

6月16日開催

学院創立80周年記念 芸術鑑賞会

6月20日(水)、学院創立80周年記念・芸術鑑賞会を開催しました。会場となった広島厚生年金会館ホールは本校の生徒、教員、保護者合わせて1,400人の熱気に包まれました。

長野政義校長の挨拶後、第1部「和楽器演奏集団・独楽」による和楽器演奏が勇壮な太鼓の響きとともに幕を開けました。とりどりの和楽器の演奏、舞台と観客席とのユーモラスな掛け合い、演奏者と本校有志生徒による合同演奏、あっという間に第1部の終了時間が訪れました。お別れの挨拶で責任者の方が、「私たちが高校生相手に演奏してきた中で、広島国際学院の生徒が最も盛り上がってくれた。皆さんのことはいつまで忘れないだろう」と言ってくれた言葉は強く印象に残りました。



楽しいパフォーマンスつき演奏

メインイベントである第2部は、司会者桂幾子さん(ラジオ司会者)の軽妙なトークで始まり、本校吹奏楽部員たちが真っ赤なシャツ、黒のスラックス姿でさっそうと登場し、観客席をどよめかせました。吹奏楽部の生徒たちの巧みな演奏と、絶妙のパフォーマンスはたちまち聴衆を魅了し、やがて舞台と観客席は一体となりました。約1時間半の公演を通して演奏者も観客もすばらしい「感動」の場を作り出そうと真剣でした。その結果、双方がとてつもなく大きな感動を得ることが出来、さわやかな達成感と誇らしさを味わいながら会場を後にしました。

メインイベントである第2部は、司会者桂幾子さん(ラジオ司会者)の軽妙なトークで始まり、本校吹奏楽部員たちが真っ赤なシャツ、黒のスラックス姿でさっそうと登場し、観客席をどよめかせました。吹奏楽部の生徒たちの巧みな演奏と、絶妙のパフォーマンスはたちまち聴衆を魅了し、やがて舞台と観客席は一体となりました。約1時間半の公演を通して演奏者も観客もすばらしい「感動」の場を作り出そうと真剣でした。その結果、双方がとてつもなく大きな感動を得ることが出来、さわやかな達成感と誇らしさを味わいながら会場を後にしました。



本校飛び入り生徒と競演

◎ 全校生徒による高校野球観戦 ◎

7月18日(水)、広島市民球場の1塁側スタンドは本校生徒・教職員・保護者・OB合わせて約1,400人の拍手と歓声で満ち溢れました。

一昨年、「生徒たちに出来るだけ多くの感動を与えたい、連帯感・母校愛を育てたい」という長野政義校長の英断によって「野球観戦特別教育活動」が復活しました。その年は1学年のみの観戦でしたが、昨年からは全校生徒を参加させる大規模な行事になりました。

対戦相手は近年めきめき実力をつけてきた英数学館。野球応援は初めてということで戸惑いがあった1学年の生徒たちも、応援団(野球部員)と吹奏楽部演奏の軽快な音楽にリードされ、一気に盛り上がり、本校関係者全体が一つになって相手チームを圧倒していきましました。スコアは5対4という大接戦。最終回、満塁のピンチをしのいだ試合終了の瞬間に感動は頂点に達し、歓喜の嵐がスタンドを駆けめぐりました。グラウンド上の選手たちと応援席が一体となってつかんだ勝利でした。

また、今回は主将の大澤和樹君が本校として実に38年ぶりの選手宣誓を力強く行い、記憶に残る夏の大会となりました。



大応援団に勝利の報告

地域に出かけて

地域保護者懇談会開催

本校では20年ほど前から、地域保護者懇談会を開催してきました。今年度は7月上旬、東広島地区・西部地区・呉地区など11地区で開催しました。この地区懇談会は本校教員(1地区10人程度)が各地域に出かけ、地元の保護者と膝を交えて生徒たちの教育について語る場と位置付けるとともに、保護者の要望を聞き、教育活動に反映させるなど幅広く活用しています。昨年度の「完全下校制度」実施や今年度の「保護者あてメール配信」開始、「屋外女子用トイレ」設置等は地区懇談会で出された要望を受け誕生したものです。



**【速報】吹奏楽部 夢の舞台(全日本吹奏楽コンクール出場)
中国地区代表として東京・普門館へ(10月)**

第19回学外展 証

文化局局长 麻生 恭兵

今年も6月16日(土)、17日(日)両日に広島国際学院大学学友会文化局の主催で第19回学外展「証」を行いました。

前回と同じく立町キャンパスを使わせてもらったのですが、今回は新しい試みとして、普段はサロンとして用いている場所をステージにしました。ステージではMPAさん、吹奏楽愛好会さん、そして機材のセッティングやBGMを担当してくれたVODさんに参加してもらいました。そのほかボランティア愛好会さんとバイオリサイクル実行部会さんが今回初めて参加してくれました。

ステージサークルはもちろんのこと、今回はボランティア愛好会さんのバルーンアートが人気でした。10サークルの皆さんに参加いただき、さらに今年は私たち文化局とサークルが一丸となって立町キャンパスの前で懸命にビラ配りを行ったおかげで、前回よりも多い290名のお客さんに来ていただきました。しかもその内の30名は一般のお客さんでした。今までは他大学の連盟として来てくれるお客さんがほとんどでしたが、サークルの皆さんの宣伝活動などのおかげで、より多くの人に楽しんでもらうことができました。

来年はもっと多くのサークルに参加してもらって、学外展を盛り上げていければと思います。



学生時代の思い出と社会人になって思うこと

経験は後に必ず役立つ…自分を向上させる出会い



自動車工業科 平成9年3月卒業 新田 由紀 (旧姓：末釜)

入学試験の時、周りは本当に男性ばかりで、もし合格しても入学してから大丈夫かなと不安でした。しかし皆やさしい人達で、何度も助けてもらったし本当によかったです。入学後は自短祭実行委員会に入り、先輩方にも恵まれ楽しく過ごしました。自短祭が近づくと、準備などで遅くまで作業したり、あちこちの業者さんに協力をお願いしに行ったりしたものです。自短祭の準備のためにしたこと社会人になってから役立つこともあり、一つ一つの経験は後々役に立つことが必ずあるのだと思いました。

卒業後は両親が経営する(有)室尾商会(呉市倉橋町)へ入社しました。現在、東広島市黒瀬町に支店があり、広島ふそうさんの元で(株)ムロオさんの車両整備をさせて頂いています。倉橋の方では自動車(大型～軽)、船外機、船、農機具、自転車、バイク、家庭用エアコン等の修理、販売などしています。憶えることも多く大変ですが、色々なことを知ることができるし、様々な業者の方ともお話できてとても楽しいです。

私は卒業後2年で自動車検査員に合格し、自動車の完成検査業務、任意保険業務、請求書作成、お客様の接客業務など色々な事をさせてもらっています。また、同じく短大卒業生の主人と結婚し、一緒に働いています。学生のように自由な時間はありませんが、充実した生活を送っています。社会人になり出会った色々な人の指導が、自分自身を向上させてくれていると思います。これからも大変ですが、育児に仕事に頑張っていくつもりです。

地域の祭りを学生も応援!

サマーフェスティバル in ほことり

去る8月25日(土)、安芸区中野東小学校区連合町内会の主催で「2007サマーフェスティバル in ほことり」が瀬野川河川敷にて開催されました。2年に一度開催され、今回は晴天のもと約5,000名が参加する大盛況。各自治会から20を超える出店と有志による歌、日本舞踊、小学生の和太鼓、演歌歌手のステージ等、多彩な内容でした。本学学友会等の有志約50名も、舞台の拡声・進行補助や打ち上げ花火などで協力。吹奏楽部等はステージで演奏も行い、地域住民の方たちと一体になって祭りを盛り上げました。



広島東洋カープ・ブラウン監督に激励のお点前



表千家流茶道部 部長 山下 哲史

7月中旬のある日、携帯に「部員を全員集めてください。22日にブラウン監督激励茶会をします」とのメールが入っていました。急な依頼に驚きながらもすぐ皆にメールを送り、部活中に詳細が説明されました。部員の反応は、予想を大きく上回るものでした。直ちに茶会に向けての準備が進められました。オープンキャンパスや大学祭とは違い、今回の茶会ではお客様は5人、時間にして1時間ほどでした。しかし、お客様の人数や時間は関係ありません。

茶道を通して今の私たちにできる最大限のおもてなしをし、監督に喜んでいただけるよう部員一同が精一杯努めるつもりで臨みました。

激励茶会当日、部員は朝8時に立町キャンパスに集合しました。間もなく始まる茶会に緊張しながらも、このような場を持たれたことを深く喜び、ブラウン監督にお会いできることを楽しみに準備を進めて行きました。お昼頃テレビ局や新聞社の方が来られ、機材の準備をしてから監督が見えるまでの間、私たちにインタビューされました。今回の茶会の経緯などを尋ねられました。緊張していたので他に何を質問されたかよく覚えていません。

いよいよブラウン監督がお見えになり、茶会が始まりました。茶会の間、自分は裏方の仕事に徹していたので、どういった会話がされたのかわかりませんでした。しかし茶会が終わり、お見送りするためにサロンに出たとき、監督の嬉しそうな表情を見て喜んでいただけたと思い、とても嬉しくなりました。急な依頼だったとはいえ、部員皆で協力して得たとてもよい思い出の一つとなりました。これからも表千家流茶道部は、皆様に喜んでもらえますよう、立ち止まらず歩み続けて行きたいと思っています。

最後に現代社会学部の迫学部長をはじめ、顧問の横田先生、ご指導いただいている久賀先生、そしてこのたびの茶会に関わった全ての皆様に厚くお礼申し上げます。



春季リーグ・新人戦ともに優勝

(広島県学生バスケットボール大会)

バスケットボール部 監督 武良 徹文

私達バスケットボール部は「広島県リーグ戦春季大会」で、10年ぶりに1位に返り咲きました。昨年は中国大会で優勝、次いで全日本学生選手権大会に出場と経験を積んだことで、選手は技術力を向上させるとともに自信を深めたと思われます。本学の選手は身長が余り高くないので、みんなで守り、全員で走るチームです。体力をつけるためにトレーニング場での筋肉トレーニングをかかさず行い、体力では他チームに負けられないようになってきたことが勝因の一つと言えるでしょう。



夏の新人戦大会でも優勝のカギは体力でした。暑い体育館で、気合負けしないことを中心にゲームに臨み、選手たちが一丸となって走りまくるチームを作り上げてきました。これから秋のリーグ戦、中国大会、そして全国大会に向けて精進したいと思います。今後とも、皆様方の声援をお願いいたします。

マネージャーの声：正直1位になれるなんて思いませんでした。マネージャーになって3年目ですが、今までは3位・4位止まりだったからです。昨年の秋の中国大会で1位になった時もそうでしたが、今回も一番ビックリしたのは私達でした。選手達は「まさか俺達かなあ〜」「おかしいだろ」と言い合いながらも嬉しそうでした。みんな今まで頑張って練習してきたのですから、考えてみれば少しもおかしくはありませんが…。これから秋のリーグ戦、中国大会、そして全国大会に向けて練習はもっとハードになっていきます。選手は体を大切に頑張って欲しいです。

- 2007年春季リーグ戦大会記録(6月24日)
 - 1位：広島国際学院大学(8勝1敗) 2位：広島大学(8勝1敗) 3位：広島修道大学(7勝2敗)
- 2007年度新人戦大会記録(9月2日)
 - 1位：広島国際学院大学 2位：広島修道大学 3位：広島大学
 - 決勝戦：広島国際学院大学 80-73 広島修道大学 3位決定：広島大学 56-51 広島経済大学

大先輩に榮譽 — 高校OBの京才さん・島津さんに褒章授与 —

国民体育大会の広島県選手団本部役員として長年の社会体育に対する貢献

(現在、広島県山岳連盟を代表して広島県体育協会常務理事)

藍綬褒章受章 京才 昭さん (機械科 昭和37年3月卒)

私は中学時代陸上部に入っていたのですが、練習中に膝の怪我で断念。コーチから気晴らしに山でも登ろうかと誘われ、弁当をもって裏山に連れて行ってもらったのが始まりで、登山が病み付きになりました。高校に入学すると山への情熱は益々過熱し、すぐ山岳愛好会を作りました。当時まだ現役バリバリだった西本五郎先生(現名誉学院長)に相談したところ、大変な励ましと力強いバックアップを頂きました。それこそまさに山岳部創部の原点だと思っています。高校2年の時に一般の広島山岳会に入会し、先輩から人間として指導者としての基礎を徹底的に叩き込まれました。

大学を卒業した昭和41年に、第21回大分国体に選手として出場。その後山岳会の先輩に誘われ広島県山岳連盟の手伝いを始めてからは、より多くの方々の指導を受けました。第34回(昭和54年)宮崎国体に監督として初出場。第39回(昭和59年)鳥取国体から広島県選手団本部役員として現在まで手伝いをしています。広島県山岳連盟を代表して勲広島県体育協会常務理事の仲間に入れていただき、微力ながら本県のスポーツ振興の一助を担うことが出来、心から感謝の毎日です。

最後に後輩の方々に「同じ体温」「同じ目線」「継続は力なり」の言葉を贈り、益々の母校の発展を祈ります。



30年間、年中無休・安全・確実・無事故で郵便物の委託運送を続ける

(庄原市内、高野・庄原両郵便局間、約40kmを車で毎日3往復)

黄綬褒章受章 島津 秀樹さん (旧姓：草谷 機械科自動車コース 昭和45年3月卒)



高校進学当時は高度経済成長期でした。車中心の社会が必ず訪れると考えた私は、広島自動車工業短期大学進学を目指し、比婆郡の山奥から機械科自動車コースに「大志」を持って入学しました。しかし2年のころから初心を忘れがちになり、先生やクラスメートに迷惑を多々かけ、結局短大受験も失敗してしまいました。その時は多くの先生が本当に親身になって私の進路を考えてくださり、そのことを今もはっきり覚えています。

心機一転新たなスタートを切る決意で広島を離れ、上京。昼間は働き、夜間の専門学校に通いました。ある時高校時代の先輩と偶然会い、アルバイトでテレビドラマ制作会社に入社していた彼の仕事場を見学して、たちまちテレビ関係の仕事の虜となりました。その後7年近く、寝食を忘れてその仕事に没頭。「ウルトラマン」「少年探偵団」「愛染かつら」…テレビコマーシャルなど多くの作品にかかわりました。

父親の病気で帰郷しましたが、故郷を離れたこの10年間の貴重な経験は私の大きな財産となりました。故郷では、農業と郵便通送に従事して現在に至っています。郵便通送の仕事は365日、雪の日も嵐の日も休むことは出来ません。この30年間、無事仕事を続けられたのは、ひとえに恩師、友人、家族の支えのお陰と感謝しています。長い人生の間には、間違いや過ちはあるものです。常にプラス思考で前向きに進んで行くことが大切だとしみじみ考える今日このごろです。

苦節20年、70歳への再チャレンジ

— 保光義文さんに工学博士号授与 —

長年の研究が認められ、アマチュア環境研究家の保光義文さんが晴れて本学の工学博士号を取得しました。保光さんは海田町出身。県立海田高校を卒業後、釣具店を営むかたわらで独自に川の水質調査を行ってきました。

本学の佐々木健教授との共同研究で、水生昆虫など底生動物の調査から瀬野川や熊野川の水環境を正しく評価する手法を確立。またこの手法を応用し、広島大学の日比野忠史准教授との共同研究で太田川放水路の水環境の評価や洪水時の環境影響調査を行ないました。特に熊野川の天然ヨシ原の浄化力が人工浄化水路にも匹敵することをフィールドで初めて実証したのは画期的です。さらに、天然ヨシ原が生活排水処理場の放流水で一時的に汚染されても、6ヶ月から3年で元の浄化状態に回復できること、この際カゲロウやトビケラが重要な働きをしていることを我が国で初めて明らかにしました。この業績が評価され、研究設備も資金もないアマチュアの研究者からこつこつと重ねた苦節が、全国的にも極めて珍しい69歳での論文博士号授与という形で実ったのです。

5月30日に執り行われた学位授与式では、奥様もにこやかに見守る中で、学長から保光さんに学位記が手渡されました。新聞社やテレビ局も取材に訪れ、この珍しい慶事を大きく報道しました。学位取得を励みにますます研究に熱が入る保光さん。70歳に向けてさらなる「再チャレンジ」が続きます。



学位記を手に笑顔の保光さん

今、求められている人材とは？

— 企業との座談会を開く —
7月31日 立町キャンパス会議室にて

今村：本法人は今年で創立80周年となります。時代の流れとともに学生への希望や要望も変化し、本学もこれに対応した形で改組を始めております。学生にどういった教育をすれば企業の方に喜ばれ、本学の価値を高めることができるのか、この機会に伺いたいと思います。本学への求人は大変好調なのですが、理系への入学希望者が減少しているため、期待に充分応えきれずにいます。自分たちの教えている内容が面白いことを高校生に理解してもらいたいので、お知恵をお貸し願えればと思います。よろしく願いいたします。

司会：まず企業の方から自己紹介いただき、次に大学の方からもご説明して議論に入りたいと思います。初めにアンデルセンサービスの村合様から、貴社の業務内容、業界または貴社の将来展望、貴社の採用基準や求める人材などについてお話しいただけますでしょうか。

村合氏：私どもの事業内容は非常にわかりやすく、パンを作って売る、あるいはそれに関連したことだけです。食品業界なので非常に安定していると言われますが、肉体労働がどんどん減少し、カロリー消費量が減っている上に少子化の影響もあって大きな流れでは変わってきております。米の消費量がここ30年減り続けているのに対して、パン用の小麦はほぼ横ばいで、米との比率は上がっています。朝食だけでなく昼・夕食に進出する余地もありますので、今後も現状維持で行けるのではと思っております。

当社の採用基準は5つです。とにかくパンが好き。一流を目指し自分の夢を描く人。お客さまの役に立ちたいと願う人。明るい人。ねばり強く行動する人。採用された方はすべて最初にお店か工場に行き、3年あるいはそれ以上頑張ってもらうわけですので、パン好きを第一条件に採用活動をしております。

司会：続いて協和エクシオの松尾様にお伺いします。

松尾氏：当社には今のところ30名ほどの卒業生が在籍しています。当社ではエンジニアソリューション(電気通信工事)、ITソリューション、エコソリューションの3つを柱に提案、設計、構築、保守までを行っております。現在、通信業界は50年に一度、100年に一度とも言われる変革期を迎え、当社はユビキタス社会やNGN(ネクストジェネレーションネットワーク)といった新しい通信網を根本から支えており、業界的には繁忙期を迎えています。

採用基準として一番重要なのがコミュニケーション能力です。受注や

打ち合わせなどでお客様に自分の思ったことを伝えなければなりませんので、人前で話し慣れている人は是非採用したいです。また「今自分はこういうことができる」とアピールでき、将来のビジョンを持っている学生さんは積極的に採用しています。資格については入社後約1年かけて教育し、現場へ出て行くという形を取っていますので、それほど心配することはありません。

遠藤：「エコソリューション」はいつ頃から始まったのでしょうか。

松尾氏：20年ほど前、雨水を浸透させてきれいにする雨水貯留システムを実現したのが走りでした。

【出席者】

村合 泰之氏	株式会社アンデルセンサービス 採用部 シニアスタッフ
松尾 真人氏	株式会社協和エクシオ 中国支店 総務部 課長代理
山縣 学氏	株式会社中電工 人事部 課長(採用担当)
川本 慎一氏	株式会社毎日コミュニケーションズ 中国支社 支社長
村上 達也氏	三菱重工業株式会社 紙・印刷機械事業部 総務部 総務勤労課 主任

今村 詮 学長

遠藤 敏郎 工学部長 檜高 靖治 情報学部長 迫 勝則 現代社会学部長

【司会】

佐々木 健 地域共同教育研究センター所長



今村学長



村合泰之氏

欠かせない「コミュニケーション能力」



松尾真人氏

司会：それでは続いて中電工の山縣様、お願いします。

山縣氏：当社は産業分類上でいえば建設業の設備工事業です。電気、水道や空気、環境などの設備の設計施行をする仕事です。また災害復旧にも携わっておりますので、社会貢献度も高い仕事といえます。業界の展望ですが電力消費や公共投資の減少、原料の高騰というかなり厳しい時代が続いています。ただ設備投資や住宅投資が若干回復傾向にあるおかげで、明るい兆しも見え始めましたが、技術者が一人前になるには10年ぐらいかかりますので、技術の継承を懸命に行っております。

当社の求める人材として大きく6つあります。ものづくりが好きな人、プロの職業意識を持ち最後まで責任持って仕事を成し遂げる人、固定観念にとらわれず柔軟な思考ができる人、失敗を恐れずチャレンジ精神旺盛な人、向上心を持ち自己啓発を行う人、コミュニケーションが取れて物事を円滑に進める協調性のある人です。大学では目的意識を持って行動し何か一つのことをやる、それでどんな成果を得たか、そのために何をしたか、どんな苦労があってどう克服したかを面接で話せる人は、入社後も成果を上げられる人と判断し、採用の大きなポイントになります。

司会：修習技術者の資格を取得した方がいいのでしょうか。

山縣氏：そうですね、技術士は確かにかなり難しい試験ですし、そういう方は是非我が社に入社していただきたいですね。入社してからその資格を取った人にはお祝い金が出るほどです。

今村：一人前になるまでの間、現場では誰かと一緒に仕事をしますか。

山縣氏：はい、仕事を覚えるまで補助者として先輩について勉強していただきます。

司会：次は毎日コミュニケーションズの川本様、お願いします。

川本氏：我々は毎日新聞社のグループ会社で、収益の柱は人材事業と出版事業です。学生さんや採用ご担当者様向けに「毎日就職ナビ」「毎日就職セミナー」などを通じて、就職活動、採用活動のお手伝いをさせていただいています。企業の採用意欲が高まる中で、昨年来各地に相次いで事業拠点を開設しています。海外に進出する企業も増えていますので、中国の北京にも事務所を開設しました。

我々の採用基準は3つです。第一にコミュニケーション能力です。お客様のニーズを集めてうまく伝えることが必要で、ヒアリング能力を最も重視しています。もう1つはバイタリティです。新卒採用分野はおそらくこの10年ぐらいの間に最もIT化が進んだと言われ、環境が大きく変わってきています。新しい環境を少し楽しめるぐらいの方が向いているように思います。似た理由でストレス耐性も必要ですね。面接や適性試験を通じて、人材を見極めるよう心掛けています。

檜高：学校で学んだことというのはどれくらい使えるものですか？

川本氏：実際に大学で学んだことが直接活かせる部分もありますが、学生さんの若い感性で、今こういうものが受けているんだよといったことが非常に大きいですね。一番活躍してくれるのは新卒の人材系では入社3～4年目ぐらいの方です。一通り採用の流れがわかったところへ自分の就職活動の経験がプラスされ、一番新しい情報を持っているのでお客様にも新鮮な情報を提供できます。さらにITの素養があればニーズを開発にフィードバックし、より学生、企業双方にとって有効なサービスを提供できます。

司会：ありがとうございました。引き続きまして、三菱重工の村上様に伺います。

村上氏：我々、紙・印刷機械事業部では、紙や印刷に係るあらゆる産業機械の製造から販売、アフターサービスまでを一貫して行っています。製品を具体的に紹介しますと、カタログやポスター等の高級印刷に使われる枚葉印刷機、新聞の折込チラシや雑誌等の印刷に使われる商業用オフセット輪転機、新聞の印刷に使われる新聞用オフセット輪転機、段ボール箱の製造に使われる紙工機械、紙を作り出す製紙機械です。今後の事業展開としては、我々の手掛ける製品は、国内市場がある程度飽和状態になっている為、各製品ごとにターゲットとする市場を定め、『輸出』に注力していく計画です。現状は、製品の輸出比率が40%程度で、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博を控え、印刷媒体のニーズが高まっている中国へ最も多く製品を輸出しています。

採用基準、求める人材については、我々は産業機械メーカーですので、何より『ものづくりが好き』で『世界一の製品を作りたい』という意気込みを持った方を採用したいと考えています。また、仕事を進めていく上で、社内外の幅広い年代の方とコミュニケーションを図る必要がありますので、コミュニケーション能力も重要であると考えています。さらに、入社後、海外への出張等の機会もあると思いますので、語学力がある方、或いは語学を勉強することに抵抗が無い方であれば、積極的に採用したいと考えています。入社後1年間は教育期間としてしっかりと教育を行う体制を整えていますので、資格については、特にこだわりません。



山縣学氏



川本慎一氏



檜高情報学部長



村上達也氏

今村：中国に進出しているそうですが、語学力とは中国語ですか？

村上氏：いいえ、基本的に英語です。現状、中国語圏への出張の際は通訳をつけることにしていますので、まずは、世界的に通用する英語を身につけていただきたいと考えています。

遠藤：こうして伺いますと、高校生がよく言う資格には余りこだわっていない企業様が多いですね。

村合氏：私どもでは高卒と大卒、それに大学院卒の人も、入社当初は全く同じ仕事をしています。まず現場が好きの人、パンを作るのが好きな人を募集し、仕事をする中で適性を見て研究や開発に配属するという考えなので。学習してきたものがなかなか発揮しにくいのかなと思いますが、今はそういうやり方をしています。

松尾氏：うちの場合、大学卒業時にある程度の単位を取り、資格取得の免除科目があると有利ですね。

檜高：技術職と専門職はどのような位置付けでしょうか。

村上氏：我々の所では専門職という名称の職種はなく、技術職と技能職という職種があります。技術職は、設計職や生産技術職で、製品の設計や製造現場の改善等を行います。技能職というのは、部品の機械加工や、製品の組立、試運転、客先での据付等を行い、現場でものづくりに直接従事する職種です。

「教える」から「育てる」へ、大学の取り組み

司会：ここで大学側の取り組みもご紹介いたします。現代社会学部の迫先生からお願いします。

迫：皆さんありがとうございます。現代社会学部は産業社会、国際社会、福祉社会の3コースを持っております。今日のお話では、専門で学んだことは実は余り役に立たないということ、企業に入ったからは1年間でも教育すること、本当にその道を極めるには10年以上かかるということが印象に残りました。私どもでは文系・理系という風に分けておりますが、それが本当に社会に送り出すきっかけになるのか勉強になったと思います。その意味でも本学部では人材育成が柔軟にできているのではと自負しております。実際の就職先を見ますと、製造業からサービス業、マスコミと多方面に渡っています。現代社会学部もこれからいい人材を育てよう頑張っていきたいと思えます。



迫現代社会学部長

檜高：情報学部は来年度から情報デザイン学部に変わります。学部内にはメディア・エンターテインメントとコミュニケーションデザインおよびコンピュータネットワークの3専攻をもっています。特徴はこれらの専攻を束ねて3つの専攻の学生が共通に勉強する情報基礎領域を設けていること、また隣の専攻の中から興味ある科目を選んで履修することができることです。そして、自分が力を入れてみたいと志望した専攻の中で勉強したことを基礎に卒業研究あるいは卒業制作をまとめて、何かやり遂げたという達成感を持った人材を育成したいと思えます。

遠藤：大学もこれからは教えるだけでなく、人間を育てることに力を入れていこうとしています。今回の改組に当たって、ものづくり教育を行います。1年次から3年次まで一緒になって何かを作り、その中でコミュニケーションや、企画して試行錯誤しながら作る力に加え、実務的な能力も身につけさせます。学生は大変いい発想力を持っているので、製品を売ることを念頭に計画や企画をさせています。ただし我々大学人は非常に不慣れなものですから、地域の企業の方々と一緒になって学生を教育する場を作っていかなければならないと思います。ご協力よろしく願いいたします。



遠藤工学部長

今村：最近では理科離れといわれ、そのため工学部と情報学部が苦心していました。本学で教えている内容は社会で必要だとPRするうまい方法はないか、企業の方から何かお知恵を拝借し、協力態勢を整えることができれば大変有難いです。

遠藤：理科離れ、工学部離れによって企業の方では今どんなことが起きていると感じておられるかお聞きしたいのですが。

村上氏：少子化、理科離れ、工学部離れによって、技術系の学生が減少している中、景気の回復や団塊世代の大量退職等の影響で各企業の採用意欲が活発になっており、我々も技術者の採用においては、機械系・電気系ともに苦勞しています。言うまでもなく、資源の乏しい日本の戦後の高度成長、経済を支えてきたのはものづくりであり、技術です。ものづくりの魅力を学生に対し、強くPRしていく必要があると考えています。

川本氏：機械や電気系の中途採用は、どの企業も苦心しているようですね。特に知名度のない企業様は厳しいようです。

司会：ありがとうございます。皆様からいただいた貴重なご意見を教育に生かして、これからも質の高い人材を社会に送り出したいと思えます。本日はお忙しい中お集まりくださいましてありがとうございます。



司会：佐々木

広島シテカレッジ『現代社会における情報とデザイン』

現代社会学科 准教授 池本 良教

情報学部と現代社会学部は、本学も加入している教育ネットワーク中国(中国地方の大学・短期大学・教育団体などで構成する連携組織で、単位互換・生涯学習・高大連携などの事業を展開)の生涯学習事業の一環として、広島市が「まちづくり市民交流プラザ」で実施する公開講座「シテカレッジ」に講座を提供しました。2学部の教員7名が協力して6月から7月にかけて「現代社会における情報とデザイン—色・形・音のコラボレーション—」を共通テーマに、「景観の記憶」「色の話いろいろ」「生活を彩る『色』」「アニメーションのできるまで」「うつわの形から考える社会と文化」「音を調べてみる」「音をめぐる『社会学』」という7つの講座を開講しました。

今回の公開講座では、十分な音量で音を出せないという制約や、台風の影響により時間を短縮するというハプニングもありましたが、受講者の方々は講師の話だけでなく、実際に色を選んだり、音や音楽を聞いたりする体験的な内容にも関心を持っていただけたようです。



熱心に聴き入る受講者



生徒も興味しんしん

高校生に大学の講義を提供!

平成19年度 中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」

バイオ・リサイクル学科 講師 竹野 健次

夏休み直前の7月14日(土)、高校生に大学の授業等を公開することで、高校生が大学の高度な教育・研究に触れ、高校教育から大学教育へと円滑に接続できるようにとの目的で、教育ネットワーク中国主催の中高大連携講座および高大連携備北講座「大学で何を学ぶか」が三次市、庄原市、安芸高田市の3会場にて行われました。本学からは私と情報デザイン学科の高桑教授が、それぞれ県立吉田高校で講義を行いました。私は環境問題と微生物の働きについて学ぶことを目的に、パン作りの実習も交えた講座「名水パンと名水分析」を開きました。受講者は47名+飛び入り数名という大変な盛況でした。受講した生徒は、「初めての経験で楽しかった」「微生物の働きとパンがふくらむ原理が分かった」と大満足でした。

一方高桑教授は、「ユビキタスネット社会と情報デザイン分野の役割」と題して、来るべき社会の夢と問題点、情報デザイナーやシステムエンジニアを目指して学ぶことの大切さを説明しました。2回の講義で合計16名の参加者でしたが好評でした。高桑教授も私も「今後も機会があれば、大学の教育内容を高校に提供し連携を図りたい」と公開講座を振り返っています。

第2回高校生ものづくりコンテスト

広島県立呉工業高等学校 教諭 藤本 修

去る6月16日(土)、広島国際学院大学学生会館「ほことり」にて『高校生ものづくりコンテスト(電気系)第2回中国地区大会』を開催しました。会場を提供いただいた広島国際学院大学に深く感謝申し上げます。

この大会は、中国地区の高等学校(電気系)生徒を対象に、平素から学習している技術・技能の更なる向上を図り、「ものづくり」への関心を高めるとともに、高等学校相互の交流を推進する目的で行われます。電気系は電気工事部門と電子回路組立部門の2部門に分かれ、生徒たちは皆真剣な表情で課題に取り組んでいました。審査の結果、電気工事部門は鳥取県立鳥取工業高等学校が、また電子回路組立部門は鳥取県立米子工業高等学校が優勝し、全国大会への出場権を獲得しました。



張りつめた空気 皆真剣です

各部門の優勝者は、11月16日～18日に静岡県沼津市で行われる『第7回高校生ものづくりコンテスト全国大会』に中国地区代表として出場します。

★ 今後の主な
行事予定

学 院	学校法人広島国際学院創立80周年記念行事 (10/31)
大学・短大	高城祭 (10/27~28) 推薦入試(工・情・11/9~10 現・短・11/10)
高 校	就職保護者懇談会(工・情・11/24)
	修学旅行(10/11~15) 英国姉妹校来校(10/18~28) 創立祭(11/17~18)

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせください。 TEL082-820-2536

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/kikaku/kouhou/>